

喪失体験をした子どもに寄り添う

ファシリテーター (ボランティア) 養成講座

会場 神戸レインボーハウス
※詳細裏面

2026年6月13日(土)14日(日)

一般財団法人あしなが育英会は震災や病気、事故、自死などで親との死別を経験した子どもたちがつどう「グリーフプログラム」を開催しています。子どもたちは、プログラムの中で様々な気持ちや経験を表現し、分かち合います。この講座では、子どもたちと一緒に遊び、寄り添うために必要な知識やスキルを学びます。

※グリーフとは、死別や喪失を経験したときに表れる自然な感情や反応のことです。

共に学び、各地で開催されるグリーフプログラムに参加するファシリテーターになっていただければとても嬉しく思います。是非、ご参加ください。



ASHINAGA



対象

子どものグリーフサポートに興味のある18歳以上の方
資格、経験、学歴、学部/学科は問いません。

参加費

一般：2,000円 学生：1,000円

定員

20名 (最低遂行人数8名)

主催：一般財団法人あしなが育英会

お申込方法

必要事項を添えて下記のメールアドレス、もしくは申込フォームからお申し込みください。

rainbow-k@ashinaga.org (ファシリテーター養成講座 申込・問合せ専用)

【必要事項】

- ①お名前 (よみがな) ②年齢 ③性別
- ④お住まい ⑤連絡先
- ⑥ご職業 / ご所属 (任意)

- ※学生の方は、学校名 / 学部学科学年 ⑦講座を知ったきっかけ ⑧参加費等に関して
⑨申込みの動機 ⑩その他 (ご自身の喪失体験の有無や心配な事、質問等)

申込締切：2026年6月7日(日)

※申込締切後定員数をオーバーした場合は
抽選の上、参加者を決定致します。

申込フォーム



講座内容

震災や病気、事故、自死などにより、親をなくし、『グリーフ』（grief: なくなった人への愛おしい気持ち、悲しみ、苦しみ、怒りなど様々な気持ち）を抱えた子どもを支える「グリーフサポート」のための知識と、身体を動かすロールプレイなどを通して、子どもに寄り添い、共に過ごすために有効なスキルを学びます。また、受講者が自分自身のグリーフを振り返るワークや、自分自身のケア（セルフケア）についても学びます。

講師



相澤治 (あいざわ おさむ)
一般財団法人あしなが育英会
神戸レインボーハウス プログラムディレクター



峰島里奈 (みねじまりな)
一般財団法人あしなが育英会
神戸レインボーハウス プログラムディレクター



高橋耕生 (たかはしこうき)
一般財団法人あしなが育英会
神戸レインボーハウス プログラムディレクター

1日目

- グリーフについての基礎知識
- ファシリテーターの役割
- 自分のグリーフを振り返る(きづき)
- ファシリテーションスキル1

2日目

- グリーフプログラムの実際について
- ファシリテーションスキル2
- ロールプレイ、セルフケア など



<持ち物>テキストや講座で使用する資料等は当日お渡しします。
筆記用具をご持参下さい。会場内、飲食可能です。

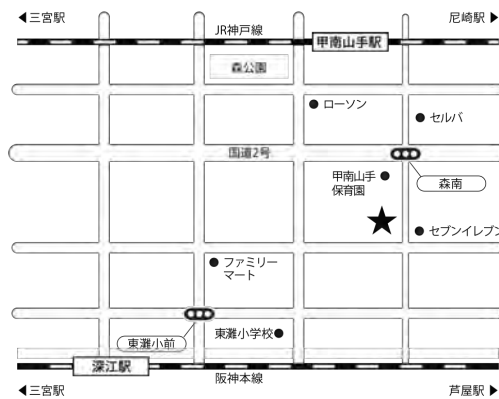
日時

1日目：6月13日(土)
2日目：6月14日(日)
10:00～17:00 (受付9:40～)

※グリーフプログラムに参加するファシリテーターになるためには2日間の受講が必要です

場所

一般財団法人あしなが育英会
神戸レインボーハウス
神戸市東灘区本庄町 1-7-3 **tel.078・453・2418**
駅からのアクセス \ JR甲南山手駅もしくは阪神深江駅から徒歩10分



ファシリテーター講座 Q & A

- Q** どのような方が受講されていますか？
A 経験やご職業、国籍、年齢関係なく大学生や専門学生、社会人の方々が受講されています。
- Q** 講座を受講して特別な資格は得られますか？
A 2日間の講座を修了された方には本会のファシリテーター講座修了証を授与いたします。公的な資格はございません。今後各地であしなが育英会が開催するグリーフプログラムにファシリテーターとして参加いただく事が可能になります。

【受講後の活動について】

講座終了後に、プログラムに関するご説明やファシリテーター登録についてのご案内をさせていただきます。是非ご登録いただき、ご無理のない範囲で活動へご参加いただければと思います。

問合せ先

一般財団法人あしなが育英会 **神戸レインボーハウス**
〒658-0012 神戸市東灘区本庄町 1-7-3 **tel.078・453・2418**
メール：rainbow-k@ashinaga.org

プログラムに参加したファシリテーターの声

- そばに居るだけで誰かの力になれることに気づける場所 (40代女性)
- 楽しんでいる自分がある (50代男性)
- 人の関わりで空間があたたかくなる (20代女性)
- 普段の自分とは異なる視点がうまれて、その見方が今の自分にはとても大切なことだと感じる (30代女性)
- 子どもを取り巻く安心な大人のいる丁寧な場所 (40代女性)
- やさしくなれる大人と子ども達がいる場所 (60代女性)
- 自分自身の死別体験への向き合い方が変わりました (30代女性)

